



買い物の利便性が鍵

郊外大規模マンション

住宅ジャーナリスト 櫻井幸雄

コロナ禍で人気が高まったのが郊外マンション。都心まで1時間程度で、広い住戸が安く購入できる新築物件だ。テレワークが定着しそうな人の場合、通勤の便利さよりも、家時間をゆったり過ごすことができるかどうかが重要。そして、抑えた分譲価格は暮らしを守るうえでもありがたい。

といっても、郊外で住戸が広く、安いマンションであれば、どこでもよいというわけではない。実は郊外マンションを検討する場合、買い物の便利さが重要な見極めポイントになる。「安くて、広い」新築マンションを探してみると、駅に近い物件を見つけることは難しいからだ。

安くて広いマンションは、駅から徒歩10分以上で、バス利用が現実的となりがち。それでも、テレワークが多いという人であれば困らないだろう。が、問題は日々の買い物である。食料品やトイレットペーパー、洗剤、薬など、買わなければならないものは毎日生じる。その買い物が徒歩10分以上となると、支障が大きい。

買い物は人生で最後まで残る仕事の一つだ。そして、楽しみでもある。郊外マンションの場合、その買い物が便利かどうか、が重要になるわけだ。

コロナ禍で人気はさらに上がり、2021年に入ってから来場者が増えている「リーフィアレジデンス橋本」も、郊外立地で買い物便利なマンションである。建設地はJR横浜線や京王相模原線が利用できる橋本駅を最寄りとし、同駅からバス3分でバス停から徒歩3分の場所だ。

買い物をする場所はずっと近い。生鮮スーパー、ドラッグストアで日用品、雑貨、ペット用品などがそろい、飲食品もあるディスカウントストア「ミスターマックス」が、徒歩1分（40メートル）の距離にあるからだ。

全425戸と大規模で共用施設が充実し、それもテレワークの生活に向く。例えば、キッチンスタジオ付きのコミュニティスペースにライブラリー付きのラウンジ、キッズスペースなどがあり、敷地内に広大な「さとやまの森」があるのも、他ではみられない特徴である。

価格は日当たり・眺望のよい71平方メートルの3LDKが2500万円台から、88平方メートルを超える4LDKでも3700万円台からの設定。家賃並みのローン返済で購入できる価格設定といえる。橋本駅近くにリニア中央新幹線の神奈川県駅（仮称）が誕生する予定になっている楽しみもある。

なお、神奈川県橋本駅を最寄りとするが、同マンションの建設地は町田市で、住民は「都民」になる。それも魅力かもしれない。